



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：シリア情勢をめぐる国連安保理決議案に対するロシアと中国の拒否権行使

1. 国連安保理での採択

2012年2月4日、国連の安保理では、シリア情勢に関するアラブ連盟イニシアティブを支持する決議案の採択が行われた。賛成は13票であったが、ロシア及び中国が拒否権を行使したため、同決議案は廃案となった。同決議案は、欧米の安保理理事国と、非常任理事国でアラブ連盟加盟国のモロッコ等との間で準備された。1月22日にアラブ連盟外相級会合で作成された同イニシアティブは、シリアのバシール・アサド大統領が自身の権限を副大統領に移譲し、2カ月以内に挙国一致内閣を樹立すること、シリア政府と反体制派が2週間以内に対話を実施し、挙国一致内閣を樹立すること等を盛り込んでいた。

2. ロシアと中国の主張

(1) ロシア（4日付NYT紙及び6日付アッシュルクルアウサト紙）

ロシアは、2012年2月4日、安保理で会合が開催される数時間前に、決議案の修正版を関係国に回覧していた。同日、ロシアのラヴロフ外相は、独国で開催されたミュンヘン安全保障会議のパネル・ディスカッションにおいて、同決議案が反政府勢力側の暴力を十分に非難していないこと、また、シリア政府に軍隊を引き揚げさせることが非現実的な要請であることの二点をロシアが懸念していると述べた。

ロシアのチャーキン国連常駐代表は、決議案がシリアの現状を正確には反映しておらず、各当事者に対し、不均衡なシグナルを送っていると述べた。一方、同代表は、シリアにおける流血や暴力は直ちに停止されるべきであるとして、ロシアがシリアにおける危機の解決に取り組む続けるとの姿勢を表明した。その上で、同代表は、メドヴェージェフ大統領の指示で、ラヴロフ外相が2月7日にシリアを訪問し、バシール・アサド大統領と会談する予定であることを明らかにした。

(2) 中国（4日付Xinhua紙）

中国の国連常駐代表は、決議案に関するロシアの修正要求が無視されたことに遺憾の意を表明し、ロシアが提出した修正版への支持を表明した。

3. 関係者の反応

(1) アラブ連盟（6日付ハヤート紙）

2012年2月5日、アラブ連盟外相級会合の議長国であるカタルのハマド首相兼外相は、独
国で開催されたミュンヘン安全保障会議の記者会見で、ロシアと中国がシリア情勢に関する
安保理決議案に拒否権を行使したことについて、バッシヤール・アサド大統領に殺害の権利
を与える好ましくない動きであると非難した。

(2) 米国（4日付NYT紙）

米国のクリントン国務長官は、2012年2月4日、ミュンヘン安全保障会議の記者会見で、
ロシアと中国がシリア情勢に関する安保理決議案に拒否権を行使したことについて、国際社
会によるシリアでの暴力非難を妨げる人々が存在することに遺憾の意を表明し、「彼らには、
我々が安保理において断固たる行動をなすために、これ以上何を知る必要があるかと問い
たい」と述べた。

また、米国のオバマ大統領は、2月4日に声明を発表し、3日にシリアのホムスで発生し
た治安部隊による住民らの殺害を非難し、バッシヤール・アサド大統領に対し、国民に対す
る殺害を今すぐ停止すべきであると述べると共に、同大統領が退任し、民主的な移行を迅速
に進めさせるべきであるとの立場を示した。

（研究員 江崎 智絵）